

●学校支援とは？
学習支援活動や登下校の見守りなど、地域全体で子どもたちを支え、見守っていき、学校教育の充実と地域の活性化を図るものです。

東部産業団地 大成ロテック株式会社と立地協定を締結

市は3月31日、田村市東部産業団地(常葉町)への立地に向けて、大成ロテック株式会社(東京都)と協定を締結しました。協定の締結は、企業立地に関する相互協力と円滑な推進を図ることが目的です。同社は、舗装や土木、建築の各工事の設計、施工・監理やリサイクルなど多彩な事業を展開。多様化する社会のニーズに応えるため、技術向上を図っています。今回の立地は、国内で民間企業初の保有となる大型舗装実験走路を通じて、開発する舗装技術の早期社会実装・普及を図ります。



田村

ゆさひと
ゆさと

6

たむらほつとニュース

No.1

朴橋、屋形、堀越 魔除けの神様が衣替え

4月9日に船引町芦沢の朴橋地区、23日に同町芦沢の屋形地区、七郷の堀越地区でお人形様の衣替えが行われました。

各保存会は、お人形様の顔の化粧を直し、髪の毛や髭の杉の葉、藁で編んだ衣などを取り替えました。高さ4メートルの新しいお人形様が完成しました。

お人形様は江戸時代に疫病が流行した際に祀ったとされ、現在でも各々の地区で衣替えを行う習俗が続いています。



朴橋



堀越



屋形

委嘱状交付 地域おこし協力隊・復興応援隊

4月13日、市役所で、田村市地域おこし協力隊・復興応援隊の合同委嘱状交付式が行われました。地域おこし協力隊は、都市地域からの移住者による地域課題の解決や、地域活性化を目的に設置しています。現在活動中の8人に加え、橋本剛さんに委嘱状が交付されました。今年度、10年目の節目を迎えた復興応援隊は6人で構成し、都路をはじめとした被災地の復興支援を目的に、見守り支援・地域イベントの運営支援などを行っています。委嘱状交付後、今後の活動について意見交換を行いました。



常葉小学校「陸上指導」
4月25、26の両日、常葉小学校の6年生37人を対象に陸上指導が行われました。田村市の陸上競技会に向けて、走り方の基本を中心に指導が行われました。講師に、ランニングクラブを立ち上げている八幡伸也さんを招き、足の上げ方を意識した動きや、スターティングブロックを使ったスタートの動きの指導が行われました。

常葉地域学校支援コーディネーターの武田美智子さんから
陸上指導をお願いするボランティアの八幡さんは、会社に勤めており、協力をいただくのは難しいと思っていましたが、ぜひ常葉の子どもたちに教えたいと快く引き受けていただきました。子どもたちの中には、運動が苦手な子もあり、気乗りしない様子が見られました。実際始まってみると、八幡さんの分かりやすい言葉と道具を使った指導で、どの子どもも、真剣に取り組む姿勢が見られました。2単位ではありましたが、八幡さんから「どの子どもも走る姿勢が良くなったと思う。指導して自分も楽しかった」と言葉をお聞きいただき、私自身も大変うれしくなりました。



足の上げ方を意識する子どもたち



スタート指導をする八幡さん

常葉幼稚園「ジャガイモ作り」
4月27日、常葉幼稚園でジャガイモ作りが行われました。「畑の先生」と呼ばれる佐藤定代さん・安男さんご夫婦は畑おこしから収穫まで協力してくれました。園児47人が1人1個ずつジャガイモを植えました。その後、植えたジャガイモの上に土をかぶせ、最後にジャガイモがおおいしく育つように、パワーを送っていました。

「畑の先生」の佐藤定代さんから
今回が初めての活動でしたが、先生が出した指示に対して、素直に聞いて実行している子どもたちの姿に感心しました。子どもたちが自分で植えたジャガイモを、自分で収穫して自分で食べるというのは、非常にいい経験になると思います。小さいうちから土に触れるのも非常にいいことです。

常葉地域学校支援コーディネーターの武田美智子さんから
西向地区は、昔から地区の学校等に対し、協力的な地域です。昨年度まで活動していただいた「畑の先生」が引退し、困っていましたが、



子どもたちにジャガイモの植え付け方を伝える佐藤さん



ジャガイモを植える園児

同地区で協力いただける方が見つかり、ホッとしています。この活動は、子どもたちが家庭では体験できないジャガイモの植え付けから収穫まで行い、収穫したものをおいしくいただく貴重なものです。子どもたちの笑顔が最高です。